2. 平成 23 年度（2011 年度）トピックス

◆住民に光をそそぐ交付金　課題解決支援サービス

総務省の「住民生活に光をそそぐ交付金」を活用して、蔵書の充実を図り、展示・提供した。これは資料・情報の提供を通じて、地域・市民の課題解決を積極的に支援するため実施したものである。課題ごとにチームを編成し総額 1800 万円の資料のリストアップや講演会・出張展示など、企画段階から大阪府立中之島図書館、地域経済課、雇用労働課、豊中商工会議所、とよなか国際交流協会、すてっぷ、市立豊中病院、中部保健センター、大阪府豊中保健所、とよなかインキュベーションセンター等関係機関と連携し取組んだ。また、特定のテーマに関する文献、情報の探し方・調べ方を案内するツールとしてパスファインダー「検索なび」を作成、配布した。利用者からも好評で、今後も蔵書の充実や関連部署との連携事業を進めていく。

調べ学習支援（岡町図書館）1,192 冊　　ビジネス・就労情報支援（千里図書館）1,347 冊
多文化共生情報支援（庄内図書館）1,511 冊　医療健康情報支援（岡町図書館）　1,329 冊
子育て・ﾄﾞﾒｽﾃｨｯｸ･ﾊﾞｲｵﾚﾝｽ（DV）情報支援（野畑図書館）　1,388 冊
視聴覚資料（高川図書館ほか）　1,099 点

連携事業:ＤＶ講演会「一歩踏み出すために、知ることから始めよう」（すてっぷとの連携）
とよなか産業フェア出展と貸出（地域経済課との連携）
健康カレッジ出張展示・貸出（すこやかプラザとの連携）
医療健康情報レクチャー「がんとうまくつきあう方法」「物忘れなんかこわくない」
（市立豊中病院との連携）

◆パスファインダー「検索なび」を通じて情報発信

市民の資料・情報入手に役立つ情報ガイド、パスファインダー「検索なび」をあらたに作成、配布し、図書館ホームページにも掲載した。リンク先（業界団体や専門家団体等）に取組みの主旨を説明するなかで、新たなつながりが生じ、連携強化に結び付いた。

「起業」「業界動向」「子育て」「ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス)」「薬」
「メタボリックシンドローム」「国際交流」「食育・食の安全」「法令・判例」の 9 種類。

今後も市民ニーズを反映した「検索なび」の作成と内容更新に取組む。

◆ブックスタート事業「えほんはじめまして」

この事業は、絵本を通して赤ちゃんと保護者が楽しいひとときをすごし、すこやかな成長のきっかけとなることを目的とし、地域全体で子育てを応援していることを保護者に伝える場となっている。豊中市では平成 15 年の試行から図書館、健康支援室（現保健予防課）と豊中子ども文庫連絡会（以下、豊子連）との連携・協力で始まり、現在では市内 3 ヶ所の保健センターの 4 か月児健診で実施している。23 年度からはブックスタート事業「えほんはじめまして」として、これまでの案内に加え、どの家庭でもすぐに絵本を開いて楽しい時間を持てるきっかけとなるよう、プレゼントの絵本 1 冊とリーフレットや絵本リスト、文庫やおはなし会の案内などをオリジナルのコットンバッグに入れ、健診の最後に赤ちゃんと保護者へ手渡している。

健診会場の一角に気軽に絵本を手にとっていただけるような場をつくるとともに、待ち時間に司書やボランティアスタッフ（豊子連など）が、絵本を通して赤ちゃんに語りかける楽しさや肉声で声をかける大切さをお伝えし、近くの図書館や子ども文庫などを紹介している。読み聞かせをきっかけに会話が弾み、赤ちゃんや保護者の笑顔があちこちでみられるなごやかな会場風景である。

健診を受診するすべての親子に声をかけられるよう、ボランティアスタッフ募集と講座、見学・実習、スタッフミーティングを開催し、内容の充実に取組んだ。スタッフ間の連携を円滑にするため、関係者間で情報共有し、年に1回懇談会も実施している。さらに図書館では乳幼児向けのおはなし会をはじめとするフォローアップ事業に取組み、参加者にも好評である。会場でお会いした親子が図書館のおはなし会に参加されたり、持ち帰った絵本のことで会話が広がったり、未受診者の家庭訪問に絵本のプレゼントが役立ったりと、うれしい報告が届いている。

この事業は、平成27年度に検証を行う予定である。

ブックスタート事業「えほんはじめまして」の様子

◆とよなかブックプラネット事業（中間報告）

「読書活動日本一に向けて　－子どもの未来が広がる学校図書館」フォーラム開催

市の基本施策「読書活動日本一」に向けた中心施策である「とよなかブックプラネット事業」。（P.23 参照）その概要を広く周知するとともに、これからの児童生徒の読書活動や小中学校における学校図書館の活用を促進することを目的として、12月9日フォーラムを開催した。

女優・脚本家の中江有里さんの、自らの体験も踏まえた読書の魅力に関する基調講演、各学校の読書活動の取組み等を映像で紹介する事業報告後、パネルディスカッションでは、コーディネーターに大阪教育大学名誉教授塩見昇先生、パネラーに中江有里さん、教育長、司書教諭、学校図書館司書が参加し、各立場から活発な発言があり議論を深めることができた。参加した保護者、教職員からは、読書活動や学校図書館の意義を再確認することができたとの感想が寄せられた。

「読書活動日本一に向けて
　－子どもの未来が広がる学校図書館」フォーラム
パネルディスカッション

◆学校図書館支援ライブラリー

庄内幸町図書館は平成 23 年 4 月に 2 階の子ども室を、学校図書館支援ライブラリーとして機能変更し、従来の貸出業務は 3 階のワンフロアーで実施している。南部地域図書館の有効利用を考える中で、公共図書館と学校図書館の連携を図る一環として行われたものである。

23 年度は、①テーマ本の巡回貸出　②学校図書館支援ライブラリーの整備　③教員向け資料の整備に取り組み、島田小・庄内小・第六中の 3 校を主なサービス対象として開始した。教員向け資料は、全市の小・中学校を対象として、教育センターの図書担当者や指導主事の意見も踏まえて、ここ 2・3 年に出版された資料の選書を行い約 550 冊の蔵書を整備した。学校図書館を通じて教員に活用してもらうことで授業を支援することを目指している。

24 年度後半にはこの 2 年の取り組みを検証し、全校へのサービスに繋ぐ可能性を精査する予定である。

「学校図書館支援ライブラリー」　教員向け資料

◆吹田市との広域利用

豊中市では箕面市に続いて、23 年 5 月から吹田市との広域利用（試行）を開始した。豊中市民は、吹田市立千里図書館、千里山・佐井寺図書館（愛称；ちさと図書館）、江坂図書館、吹田市民は、豊中市立千里図書館、東豊中図書館、高川図書館の各 3 館での利用が可能になった。1 人 5 冊まで、2 週間借出すことができる。リクエストは受付けていない。

初年度の実績は、豊中市民の吹田市立図書館での登録人数 914 人、貸出冊数 8,131 冊。吹田市民の豊中市立図書館での登録人数 1,946 人、貸出冊数 23,966 冊と豊中市立図書館での吹田市民の利用が多い。その大半は交通の便が良い千里図書館に集中している。連日多くの吹田市民が豊中市に訪れることで、周辺地域への経済効果も期待できる。

今後、豊中市民に向けても広域利用サービスを積極的に案内することにより、図書館未整備地区住民の利便性向上に繋げる。また、24 年 6 月からの実施をめざして豊中市、池田市、箕面市、豊能町、能勢町の豊能地区 3 市 2 町で公立図書館広域利用（試行）の協定を結んだ。

◆「手塚治虫文庫」開設　－市制 75 周年記念－

手塚治虫文庫は、岡町図書館貸出室で、1,036 冊の手塚治虫作品を新しく蔵書に加え、平成 23 年 7 月 20 日から翌年 3 月 31 日まで開設した。

豊中市が市制施行 75 周年を迎えることを機に、豊中市の財産である「人」のいのちを守り育む施策事業の一環として実施した。数々の作品を通して、いのちの大切さを社会に訴えかけてきた豊中市出身の漫画家・手塚治虫さんを顕彰し、手塚作品に触れる機会を市民に提供するために開設したものである。

期間中には、手塚作品を懐かしむ大人から、初めて作品に触れる子どもまで幅広い利用があった。

また宝塚市立手塚治虫記念館との連携で、豊中市立市民ギャラリーで開催された「手塚治虫カラー版画展」より作品 3 点を借用し、7 月 20 日から 7 月 31 日まで展示した。

◆東日本大震災被災地へ

＜支援ボランティアへの参加＞

23 年 8 月 5 日から 9 日まで、本市に寄せられた震災支援金を活用したボランティア活動の一環で、被災した福島の子どもたちを支援するために、教職員とともに図書館職員 4 名が現地を訪問した。

大阪空港就航都市の関係である須賀川市（福島空港所在地）のムシテックワールドに本や実験器具を寄贈した後、福島県西郷村の国立那須甲子（なすかし）青少年自然の家でのボランティア活動を開始した。国立青少年教育振興機構が主催する 7 月 21 日から 8 月末までのリフレッシュ・キャンプ 11 回のうち、第 6 回目に参加した。このキャンプは東京電力福島第一原子力発電所の事故により、外遊びやプールの利用を控えるなど、日常生活の中で多くのストレスを抱えている福島の子どもたちの心身の健康やリフレッシュを図ることを目的としている。

3 泊 4 日の間、120 人あまりの福島の子どもたちと寝食をともにし、ハイキングやプール、うどん打ちなど、多様な活動の他、日ごろの業務での経験を生かし、パネルシアターや絵本の読みきかせ、大阪弁の手遊びの紹介等を行い、子どもたちの笑顔も見られ、ボランティアとして有益な時間となった。

＜被災地小学校へ本の寄贈＞

豊中市は、就航都市の関係にある被災地に支援物資や市民提供の文房具の寄贈などを実施した。その一環として、図書館では、宮城県名取市（仙台空港所在地）の閖上（ゆりあげ）小学校に市民などから寄贈された児童書の提供を申し出たところ、間借りしている校舎では置くスペースがなく授業に使える図鑑が欲しいとの要望を受け、花や動物などの図鑑 45 冊にマチカネワニのイラストが描かれたカードにメッセージを添えて送った。

（産経新聞北摂版　平成 23 年 7 月 30 日掲載）

＜被災者への情報提供＞

23 年 11 月から 24 年 3 月までの間、日刊紙「福島民友」（福島民友新聞社発行）を、日本図書館協会から寄贈を受け提供した。